

感染症及び熱中症予防に関連するお知らせ

処暑を迎えたとはいえ、夏の名残の厳しい暑さが続いています。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

子供たちは、夏季休業中に新型コロナウイルス感染症に罹患することもなく、笑顔いっぱい元気に登校し、2学期が無事スタートしました。保護者の皆様のご尽力の賜物と感謝申し上げます。

さて、感染症及び熱中症予防に関する当面の取組について、下記の通りとさせていただきますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

記

1 当面の対応

- (1) 感染症予防並びに教育活動については、1学期と同様の対応を基本とします。
具体的には、本校ホームページの「感染症から守る」をご覧ください。
<http://www.city.akishima.ed.jp/~fujimi/08covtd/boushi/boushiTop.html>
判断基準は、都の新型コロナウイルス感染警戒度（感染状況総括コメント）に準じます。
<https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/iryo/kansen/monitoring.html>
- (2) 登校時刻の厳守をお願いします。
三密及び熱中症を避けるために、8時前に学校に到着することがないように、時間調整をしてください。登校を分散させるためには、多少の遅刻もやむを得ないと考えます。
- (3) 次の理由により、3年生の現教室（ランチルーム）を普通教室（2階）に移動します。
 - ・児童が学習しやすく、過ごしやすいという観点から、より最適な環境を整える。
 - ・現在、十分な感染症予防をとっており、校内での感染リスクは小さい。
 - ・3年生は、体格の面で、机等の配置の工夫により、密を避けることができる。
 - ・学級担任の体調（御懐妊）を鑑み、3階から2階に移し、労力の軽減を図る。
- (4) 登下校時はマスクを外すようにしてください。帽子の着用と水筒の持参も忘れずに！
マスクを外す際は、人と十分な距離（2m程度）を確保し、会話を控えます。
- (5) 屋内外に関わらず、活動場所の暑さ指数（WBGT）に基づき、教育活動を制限します。
 <WBGT危険相当>（WBGT31℃～）：教育活動全般において制限（原則、運動中止）する。
 校庭での外遊びや体育等は、WBGT31℃未満の日陰等に限定し、教員の管理下において水分補給や休憩をとるなど、熱中症予防を十分行うとともに、活動量を抑制する。
 <熱中症警戒アラート相当>（WBGT33℃～）：教育活動全般における制限を強化する。
 校庭での外遊び、体育、学級活動等の運動、野外活動（観察等）は、すべて中止とする。

2 【参考】感染症の状況

- (1) 文部科学省「学校の新しい生活様式」（8月6日）より
 - ・6月1日から7月31日までの間、児童生徒242人、教職員51人、幼稚園関係者29人の感染の報告がありました。
 - ・児童の感染者数は、90人で、その内「学校内感染」は0%（0人）でした。
一方で、「家庭内感染」が、70%（90人中63人）を占めています。
その他の30%は、感染経路不明、家庭・学校外の場所、帰国者等が占めています。
- (2) 東京都「新型コロナウイルス感染症対策サイト」（8月26日）都内の最新感染動向より



参考 ○環境省「熱中症予防情報サイト」 <http://www.wbgt.env.go.jp/>

暑さ指数とは

暑さ指数（WBGT）は労働環境や運動環境の指針として有効であると認められ、ISO等で国際的に規格化されています。（公財）日本体育協会では「熱中症予防運動指針」、日本生気象学会では「日常生活に関する指針」を下記のとおり公表しています。労働環境では世界的にはISO7243、国内ではJIS Z 8504「WBGT（湿球黒球温度）指数に基づく作業者の熱ストレスの評価－暑熱環境」として規格化されています。

熱中症警戒アラートとは ～ WBGT33℃以上の予測

熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される際に、環境省・気象庁で新たに暑さへの「気づき」を呼びかけ国民の熱中症予防行動を効果的に促すための情報提供を開始（試行）することとしました。

アラートは、熱中症の危険性が極めて高くなると予想される前日あるいは当日に、対象都県に対して発表されます。発表された際には、日頃から実施している熱中症予防対策の普段以上の徹底をお願いいたします。

運動に関する指針 （公財）日本体育協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（2013）より

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31℃以上	運動は原則中止	WBGT31℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合は中止すべき。
31～35℃	28～31℃	厳重警戒 (激しい運動は中止)	WBGT28℃以上では、熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。
28～31℃	25～28℃	警戒 (積極的に休息)	WBGT25℃以上では、熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。
24～28℃	21～25℃	注意 (積極的に水分補給)	WBGT21℃以上では、熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21℃未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	WBGT21℃未満では、通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

参考 ○東京都「新型コロナウイルス感染症対策サイト」 <https://stopcovid19.metro.tokyo.lg.jp/>

東京都では、新型コロナウイルス感染症について、毎週、専門家による状況分析を項目毎に行い、都内の感染状況と医療提供体制それぞれについて「総括コメント」として4段階で評価しています。

都の新型コロナウイルス感染警戒度（感染状況総括コメント）

1 感染状況

<判定の要素>

- いくつかのモニタリング項目を組み合わせ、地域別の状況等も踏まえ総合的に分析

<総括コメント（4段階）>

- 感染が拡大していると思われる
- 感染が拡大しつつあると思われる
- 感染拡大の兆候があると思われる
- 感染者数の増加が一定程度にとどまっていると思われる

8月19日時点の分析段階